

一 般 質 問 日 程

1 2 月 1 0 日 (火) Am 9 : 0 0 ~

1. 唐澤 克己 議員
2. 武田 篤子 議員
3. 唐澤 健 議員
4. 前沢 光昭 議員
5. 堀本 丈文 議員
6. 平澤 恒雄 議員

1 2 月 1 2 日 (木) Am 9 : 0 0 ~

7. 酒井 浩文 議員
8. 壬生眞由美 議員
9. 武田 徹 議員
- 1 0. 井原 康明 議員

令和6年豊丘村議会12月定例会 一般質問通告一覧

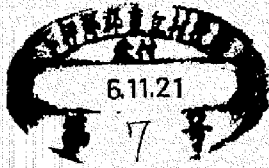
【1日目】令和6年12月10日(火)

【2日目】令和6年12月12日(木)

2日目(12日)		
通告 ・ 順位	質 問 者	質 問 事 項
7	酒井 浩文	1. 地方創生10年の検証と今後について 2. 歩く村づくりについて
8	壬生眞由美	1. 村内のリニア建設工事における要対策土の処分について 2. 「有機農業の日」について
9	武田 徹	1. 令和7年度土木申請について 2. 消防団の維持について
10	井原 康明	1. 行政の事業支援について

令和6年11月21日

豊丘村議会議員 片桐忠彦 様



豊丘村議会議員

酒井浩文



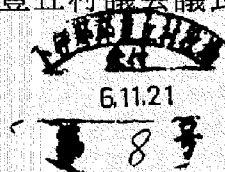
一般質問通告書

次の通り通告します。

質問事項	質問の要旨	質問相手
1 地方創生10年の検証と今後について	国の号令で始まった「地方創生」が今年で10年を迎えた。地方の自主性と競争を促した様々な事業はどのような成果をもたらしたか、当村の状況を伺いたい。 (1) 地方創生交付金を活用した当村の主な事業とその後の状況は。 (2) 事業内容とその後の経過から、当村の地方創生は成果ありとみえるが、今後の課題は。 (3) 石破首相は就任会見で、地方創生交付金の倍増を表明した。第6次総合振興計画と照らし、今後どのような活用と展開を考えているか。	総務課長 総務課長 村長
2 歩く村づくりにについて	長野県は平均寿命が全国トップクラスであり、世界で1番（ACE）の健康寿命を目指し、県民総ぐるみの様々な健康づくりの取り組み「ACEプロジェクト」を展開している。その中のA（Action＝体を動かす）について、当村の状況を伺いたい。 (1) 健診＝C、食生活改善＝E、に対し、Aの取り組みがあまり積極的でなく成果も見られない。どのような背景が影響しているか。 (2) 健康な体は、まず足元から。村民が個々の意識で歩く（歩ける・歩きたくなる）環境の整備が必要である。現状からの課題は何か。 (3) 歩く村づくりへ向けた、環境の活用と課題解決（ハード面とソフト面）への提案と可能性は。	健康福祉課長 健康福祉課長 村長または健康福祉課長

令和 6 年 11 月 21 日

豊丘村議会議長 片桐忠彦 様



豊丘村議会議員

壬生 真由美

一 般 質 問 通 告 書

次の通り通告します。

質問事項	質問の要旨	質問相手
1. 村内のリニア建設工事における要対策土の処分について	11 月 14 日に開かれた県の環境影響評価技術委員会では、飯田市のリニア中央新幹線県駅東側の土曾川橋梁橋脚基礎工事に、大鹿村のトンネル掘削で発生した「要対策土」を使う方針を巡り、JR 東海が環境保全計画が審議された。2016 年度の着工から 23 年度までに県内で発生した残土は 200 万 m³で、うち要対策土は約 1%の 2.3 万 m³とのこと。そこで、豊丘村内のリニア建設工事で発生した要対策土について伺いたい。 (1)平成31年1月10日の第 17 回豊丘村リニア対策委員会において示された、坂島の発生土並びに要対策土の仮置き場の造成計画と、これまでの実際の運用状況を伺いたい。 (2)トンネル掘削工事の進捗に対応して発生した要対策土の量の推移と、現在仮置きされている土量をお示しいただきたい。 坂島坑口から本坑掘削が本格化すれば、要対策土も増加する。今年1月30日の第28回リニア対策委員会で JR 東海が3項目の「対策土活用方針」を発表しました。 ・自社用地を基本とし、公共事業や民有地の活用も検討 ・豊丘村内の発生土は村内で処理 ・交通安全の確保や居住環境への配慮のためできる限り山間地で処理	総務課長
		総務課長

質問事項	質問の要旨	質問相手
	「その上で周囲に人家、耕作地の無い本山発生土置き場が最適地であると判断した」としています。 これは今までの説明を翻すものでした。 (3)本山発生土置き場は既に地縁団体から JR 東海へ払い下げられたのか。また、本山に要対策土を入れることを本山地縁団体の構成員である虻川以南の全住民に十分に周知されているか。どのように周知され、了解されているのか伺います。 (4)事業者自身が運搬や処理にかかるコストを第一とし、住民と今までの話し合いをしてきた内容を大きく変更し、事業の協力を求める対応をどのように感じますか。村長に伺います。 (5)要対策土は活用するものではなく、安全に処理されるべきものです。その方法については国土交通省のマニュアルや土壌汚染対策法が適用されます。地元行政機関として、その手法の根幹は抑えておく必要があると思いますがいかがでしょうか。 (6)対策土の不溶化処理について、リニア対策委員会では、委員より質問があった。十分な審議ができるように専門的知識を有する、建設事務所の技術職員や第三者の技術者等にアドバイスや参画していただくことが必要ではないでしょうか。	総務課長 村長 総務課長 総務課長
2.「有機農業の日」について	12月8日は「有機農業の日」です。農水省では11月18日～12月13日の特別期間中、「学校給食での有機農産物の利用」、「有機食品の販売促進の取組」を推進すると共に、「有機農業関連イベント」を紹介している。村では豊丘村農業・農村振興懇談会や有機農業推進協議会の立ち上げなどに取り組まれている。有機農業も含め、毎日の食に直結する農業の在り方や振興を、農業関係者だけでなく、子育て世代や保健福祉関係の参画も必要とを感じるいかがでしょうか。	産業振興課長

令和 6 年 11 月 21 日

豊丘村議会議長 片桐忠彦 様



豊丘村議会議員 武田 徹



一 般 質 問 通 告 書

次の通り通告します。

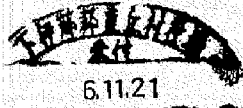
No.1

質問事項	質問の要旨	質問相手
1) 令和 7 年度土木申請について	令和 7 年度の土木申請の受付が 11 月中に終了し、来年度の土木工事の要望箇所が出そろったところだと思います。そこで何点か質問します。 ① 今年の申請の傾向は、維持修繕的なものが多いのか ② 水路、排水路改修の要望は多くなっているのか ③ 新設改良工事は、佐原線が本年度で終了し、壬生沢線はリニア関連工事などで順次改良が進んでいますが、今後の幹線道路等の規模の大きい改良計画はあるのか。 水路改修は、施設の老朽化やこのところの豪雨によるオーバー等今後益々要求が増えてくると思われます。新田地帯の用排水路、特に河野新田地区の用排水路は、幹線水路から徐々に改修されていますが、残っている排水路等は数十年経過した老朽した施設です。集中的な投資により、早期の改修が必要と思うがどうか。 (要望) 申請を受け付けるとき、区長さんや土木委員長さんなど区関係者の皆さんと充分意見交換はしていると思いますが、実際の関係者からも状況を聞く中で採択等の判断をぜひお願いしたいものです。土木工事は、関係者はもとより、工事を行う建設業者にとっても重要な問題です。工事量を確保するためにも採択箇所には配慮願いたいものです。	建設環境課長 建設環境課長 回答があれば、課長又は村長

質問事項	質問の要旨	質問相手
2) 消防団の維持について	消防団員の減少については、今までに何回か質問をしてきました。先日のおよかまつりの中である団員から「本当に1分団まずい状況です」「このままでは1分団が無くなります」と相談を受けました。また、団幹部との懇談会の中でも、現状をお聞きしています。 ① 現状に対してどのような認識を持っているかお聞きします。 ② 現在の3班（自動車、軽便2班）体制を維持していくには、人数が足りない状況は明らかです。班の統合（減少）について、3班を2班にする場合、区、各自治会等に理解を求めることは必要なことと思いますが、これから、来年度のスタートまでに組織変更は可能か、又行うべき対応は何か ③ 団員確保についても、団活動では限界が来ています。村も一緒になって何かできないか。	村長
		総務課長
		総務課長
	消防団は、有事の際の消火活動や、予防活動、保育園、小学校の避難訓練等多くの活動を行っています。またおよかまつりではブースの出店、後片付けの手伝い等地域にとっても、村にとっても大切な組織。現状を改善する特効薬はありませんが、他町村の取組みを参考にする中で大胆な組織改革を行うことが重要であると考えます。この改革に時間を要している余裕がもう無い状況です。団、村、地域が一体となって検討する組織の早急な立ち上げ、検討の開始を要望しますが、考えは	村長

令和6年11月21日

豊丘村議会議員 片桐忠彦様



豊丘村議会議員 井原 厚明

第10号 一般質問通告書

次の通り通告致します

1/2

質問事項	質問の要旨	質問相手
1. 行政の事業支援について	現在、当村では行政による事業支援が様々な角度や内容で行われており、住民サービス（制度）への取り組みなどが、行われています。これ等の支援は企業や団体、G r、また、個人にとっても有益であると共に、また、個人の生活環境の拡充や地域おこし、地域活性化に向けた取り組みなどへの活用面は幅広く、支援を受けられる方にとっては大変ありがたい支援と思っています。 さて、今回の質問は村が支援をした一部の事業であり、すでに今年の秋には支援が終結（事業の打ち切り）をしている事例で恐縮ですが、今後の事もあり、事業への支援の在り方に関して伺います。 1) チョウザメの養殖について、行政が関わった経緯などについて伺います。 ① 当初の関わりは、どんなことから ② どの様な考えで行政が関わったか 2) チョウザメ事業に関わった時点での、先々の展望や構想などについて伺います。 ① 事業主体は何か（G r・行政・共同 ② 事業拡大構想は（環境向け・商品化・ブランド化） ③ 予算的支援の状況は（当初のみ・継続的） 3) この事業を成功させるために、発起G rや行政はどんな活動をしてきたか伺います。 ① 調査について ② 研究について ③ その他	産業振興課長 産業振興課長または、副村長 産業振興課長または、副村長

	4) 今年の秋に事業（支援）の打ち切りをしたが、どんなことから打ち切りにしたのか伺います。 ① 打ち切り時の状況について ② 状況に対しての問題点について	産業振興課長
	5) 事業の打ちに関し、行政サイドとして思う原因は何か伺います。	副村長
	6) 今回の様に事業に行政が関わることは、特に問題視はしませんが、関わり方が十分であったか？ ① この点の見解を伺います。 (研究や調査上での課題解決など)	副村長
	7) 今回の事業に行政が関わったことは、費用対効果も含め、将来的に村の活性化につながるのと考え（思い）からだと推測しますが、途中で打ち切りとは、取り組み方が甘かったのではないか。 ① 見解を伺います。	村長
	8) 今回のことをふまえ、今後も同様な行政支援の必要性がある企画や事業等がある場合は、関係機関の協力を得るなど、調査、研究を十分行い事業の成功にむけて本腰を入れての取り組みが必要ではないか。 ① 見解を伺います。	産業振興課長 村長